

(再評価)

資 料 4

令和3年度第4回
関東地方整備局
事業評価監視委員会

報告案件資料

1. 鬼怒川直轄河川改修事業
2. 荒川下流特定構造物改築事業（京成本線荒川橋梁架替）
3. 富士川総合水系環境整備事業
4. 利根川総合水系環境整備事業（鬼怒川環境整備）
5. 利根川総合水系環境整備事業（小貝川環境整備）

令和3年12月23日
国土交通省 関東地方整備局

事業の審議状況

河川事業、ダム事業について、河川整備計画策定後、計画内容の点検のために学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて当該委員会での審議を行うものとする。（※国土交通省公共事業の再評価実施要領より）



【利根川水系鬼怒川・小貝川河川整備計画フォローアップ委員会】

令和3年12月13日（月）

委員：筑波大学 西村委員長、宇都宮大学 池田委員、早稲田大学 関根委員、作新学院大学 青木委員、東京大学 鷺谷委員、筑波大学 佐藤委員、宇都宮共和大学 和田委員、茨城県立歴史館 永井委員

鬼怒川直轄河川改修事業 再評価

・事業継続について了解

利根川総合水系環境整備事業（小貝川環境整備）

・事業継続について了解

利根川総合水系環境整備事業 （鬼怒川環境整備） 再評価

・事業継続について了解



【荒川水系河川整備計画フォローアップ委員会】

令和3年12月1日（水）

委員：埼玉大学 田中委員長、東京都立大学 横山委員、東京大学 沖委員、河川環境保全モニター 堂本委員、東京大学 知花委員、埼玉大学 浅枝委員、日本大学 手塚委員、横浜市立大学 鈴木委員、東京大学 加藤委員

荒川下流特定構造物改築事業（京成本線荒川橋梁架替） 再評価

・事業継続について了解



【富士川水系河川整備計画フォローアップ委員会】

令和3年12月9日（木）

委員：元山梨大学 末次委員長、山梨大学 砂田委員、山梨大学 馬籠委員、山梨大学 大山委員、常葉大学 浅見委員、山梨大学 風間委員、山梨県水産技術センター 塩崎委員、東海大学 秋山委員、山梨県土地改良事業団体連合会 渡邊委員、静岡県土地改良事業団体連合会 絹村委員、山梨大学 武藤委員、帝京大学 萩原委員、株式会社JTBパブリッシング 河野委員

富士川総合水系環境整備事業 再評価

・事業継続について了解

荒川下流特定構造物改築事業(京成本線荒川橋梁架替)

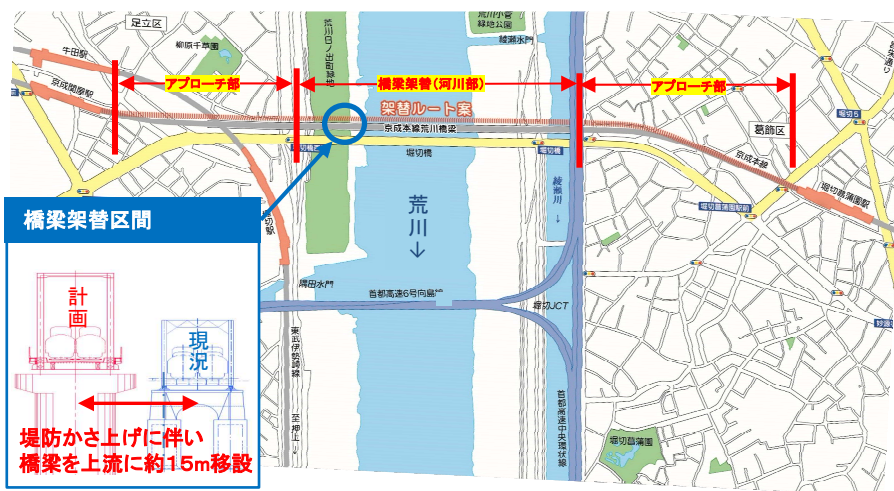
1. 目的

- ・京成本線荒川橋梁の桁下は、必要な堤防の高さに対して約3.7m低く、危険な状態となっているため、橋梁を架替え、切り欠き部の堤防を嵩上げを行うことで、当該箇所への流下能力の向上を図る。

2. 事業概要

- ・事業概要: 橋梁架替
- ・事業期間: 前回: 平成16年度～令和6年度
今回: 平成16年度～令和19年度
- ・全体事業費: 前回: 約364億円 今回: 約730億円

3. 位置図



4. 事業の進捗状況等

- ・これまでに現地調査、概略設計、詳細設計及び環境影響評価を実施。
- ・現在、用地買収を実施中。



5. 事業の効果等

- ・橋梁を架替え、切り欠き部の堤防の嵩上げを行うことで、当該箇所への流下能力の向上を図ることが出来る。

6. 事業の投資効率性

※B,C: 現在価値化後

【全体事業】 (前回)

総便益B: 約7,345億
総費用C: 約333億
B/C: 22.0

(今回)

総便益B: 約4,832億
総費用C: 約572億
B/C: 8.4

【残事業】

総便益B: 約4,832億
総費用C: 約534億
B/C: 9.0

7. 対応方針(案)

- ・荒川下流特定構造物改築事業は、現段階においても、その必要性は変わっておらず、引き続き事業を継続することが妥当と考える。

富士川総合水系環境整備事業

1. 目的

【水辺整備】

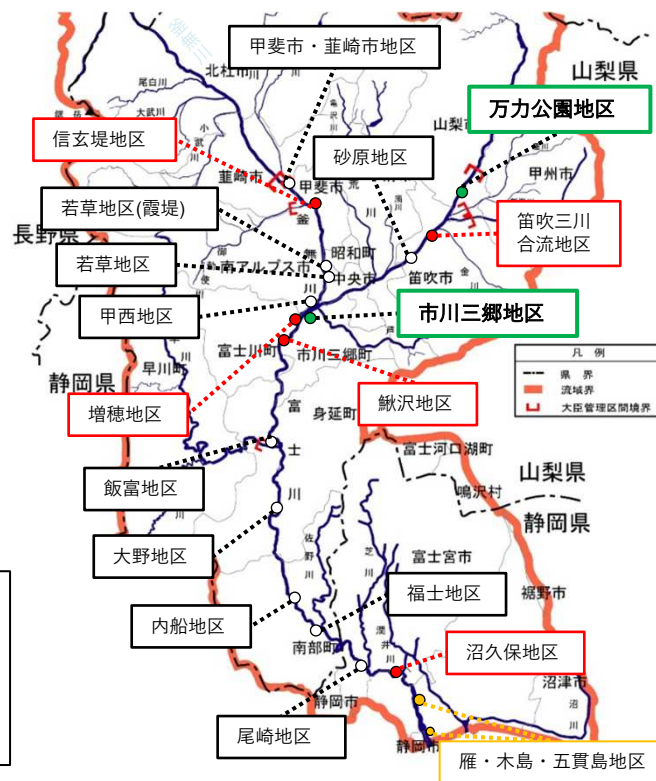
流域は平地の割合が少なく、河川空間は貴重なオープンスペースである。そのため、散策や環境学習の場として、誰もが安全かつ容易に利用できる魅力ある水辺空間の整備を目指す。

2. 事業概要

【水辺整備】

- ・事業概要: 親水護岸、管理用通路(散策路)、高水敷整正、水路等
- ・事業期間: 平成15年度～令和18年度
- ・全体事業費: 前回: 約64億円 今回: 約66億円

3. 位置図



- 凡例
- : 整備完了
 - : 継続
 - : 継続(新規)
 - : 整備前
 - : 流域界

4. 事業の進捗状況等

【水辺整備】

・万力公園地区

平成28年3月に登録し、令和3年3月に変更登録された「山梨市かわまちづくり計画」に基づいた整備として、地域のニーズを踏まえ、水辺の癒し空間創出として、管理用通路と河道整正を、令和4年度から事業着手し、令和8年度の整備完了を目指す。

・市川三郷地区

令和2年3月に登録された「市川三郷町かわまちづくり計画」に基づいた整備として、地域のニーズを踏まえ、イベント時にも利用可能な管理用通路と坂路を、令和4年度に事業着手し完了を目指す。

【万力公園地区】



【市川三郷地区】



5. 事業の効果等

【水辺整備】

散策や環境学習の場として、誰もが安全かつ容易に利用できる良好な水辺空間が整備される。

6. 事業の投資効率性

※B.C: 現在価値化後

【全体事業】

(前回)

総便益B : 約225億円

総費用C : 約58億円

B/C : 3.9

(今回)

総便益B : 約255億円

総費用C : 約72億円

B/C : 3.6

7. 対応方針(案)

当該事業は、誰もが安全かつ容易にふれあうことのできる水辺空間を確保する観点から、事業の必要性が高く、引き続き事業を継続することが妥当と考える。

5

